

受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「インベスコ 世界グリーンボンド・ファンド<為替ヘッジなし>/<為替ヘッジあり>」は、このたび、第2期の決算を行いました。

当ファンドは先進国の通貨建て（日本円を除きます。）のグリーンボンド[※]を実質的な主要投資対象とし、投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を図ることを目標として運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

※ファンドにおいて、グリーンボンドとは企業や国際機関、地方自治体を含む政府や政府機関などが環境改善を目的とする事業（グリーンプロジェクト）に要する資金を調達するための資金として使用するために発行する債券やグリーンプロジェクトに係る資産から生まれるキャッシュフローを裏付けに発行される債券をいいます。（以下同じです。）

<為替ヘッジなし>

<為替ヘッジあり>

第2期末(2023年11月14日)		第2期末(2023年11月14日)	
基準価額	10,769円	基準価額	7,693円
純資産総額	1,621百万円	純資産総額	412百万円
第2期		第2期	
騰落率	11.5%	騰落率	△ 3.2%
分配金(税込み)合計	0円	分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、インベスコ・アセット・マネジメント株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>

右記<お問い合わせ先>のホームページにアクセスし、「ファンダー一覧」等から運用報告書（全体版）を閲覧およびダウンロードすることができます。



インベスコ 世界グリーンボンド・ファンド <為替ヘッジなし>/<為替ヘッジあり>

追加型投信/内外/債券



交付運用報告書

第2期

(決算日 2023年11月14日)

作成対象期間 (2022年11月15日～2023年11月14日)

インベスコ・アセット・マネジメント

東京都港区六本木六丁目10番1号六本木ヒルズ森タワー14階

<お問い合わせ先>

お問い合わせダイヤル：(03)6447-3100

(受付時間：毎営業日の午前9時から午後5時)

ホームページ <https://www.invesco.com/jp/ja/>



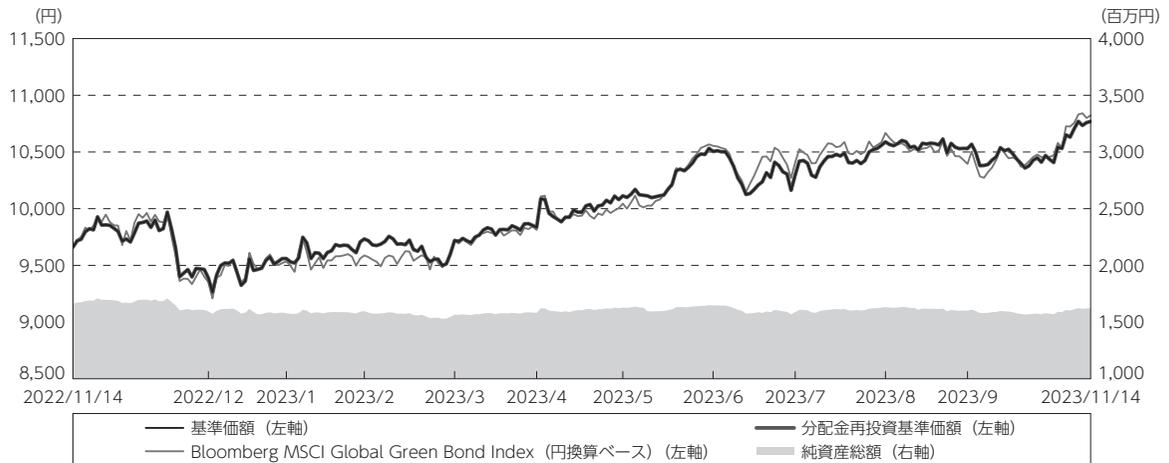
見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

インベスコ 世界グリーンボンド・ファンド<為替ヘッジなし>

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2022年11月15日~2023年11月14日)



期 首：9,660円

期 末：10,769円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：11.5% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびBloomberg MSCI Global Green Bond Index (円換算ベース)は、期首(2022年11月14日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) Bloomberg MSCI Global Green Bond Index (円換算ベース)は、参考指数です。参考指数の詳細は22ページをご参照ください。

○基準価額の主な変動要因

[上昇要因]

- 先進国の通貨建て(日本円を除きます。)のグリーンボンドを実質的な主要投資対象とし、取得時ににおいて投資適格以上の信用格付を有するグリーンボンドに投資を行うとともに、ポートフォリオ全体の平均格付は原則として投資適格以上とすることを基本とした運用を行った結果、保有する債券からのインカムゲイン(利息収入)が、基準価額の上昇要因となりました。
- 実質外貨建資産について対円での為替ヘッジを行わなかったため、期を通じてみると米ドルやユーロなどが対円で上昇したことが、基準価額の上昇要因となりました。

【下落要因】

- ・米連邦準備理事会（F R B）が利上げを行ったこと、期末には利上げが終了するとの見方が広がったものの、金融引き締め政策の継続を示していることなどから債券利回りが上昇（債券価格は下落）したことなどが、基準価額の下落要因となりました。

1 万口当たりの費用明細

(2022年11月15日～2023年11月14日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	92	0.913	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(44)	(0.440)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等の対価
（ 販 売 会 社 ）	(44)	(0.440)	購入後の情報提供、運用報告書等各种資料の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
（ 受 託 会 社 ）	(3)	(0.033)	ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	0	0.000	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
（ 先 物 ・ オ プ シ ョ ン ）	(0)	(0.000)	※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) そ の 他 費 用	8	0.081	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	(2)	(0.020)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（ 監 査 費 用 ）	(5)	(0.049)	監査費用は、監査法人に支払うファンドの監査に係る費用
（ 印 刷 費 用 ）	(1)	(0.012)	印刷費用は、目論見書や運用報告書等の法定書類の作成・印刷に要する費用等
（ そ の 他 ）	(0)	(0.000)	その他は、信託事務の処理に要する費用
合 計	100	0.994	
期中の平均基準価額は、10,039円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

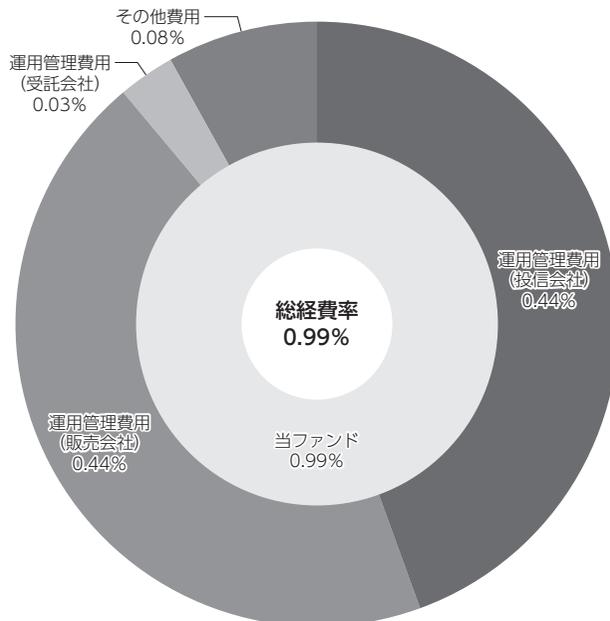
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

(参考情報)**○総経費率**

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.99%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

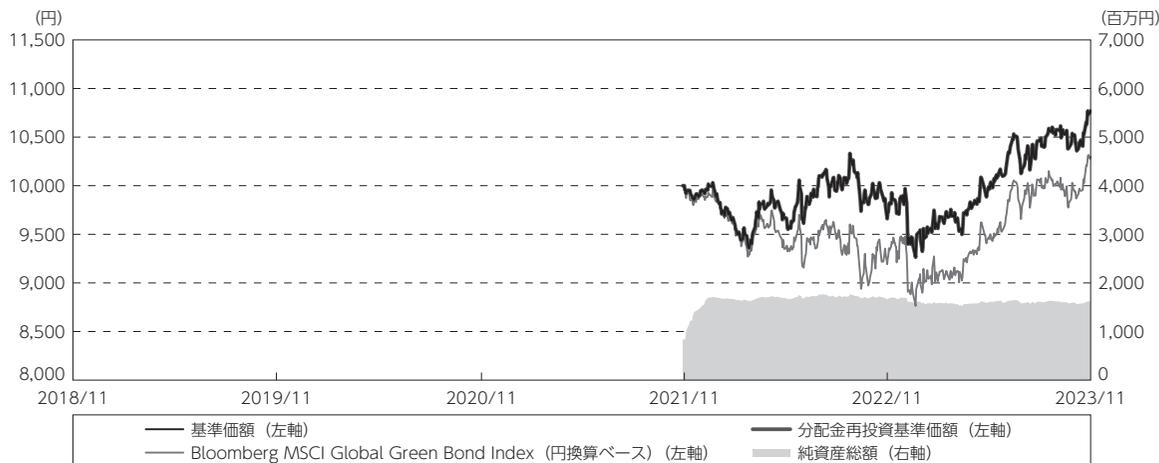
(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2018年11月14日～2023年11月14日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) Bloomberg MSCI Global Green Bond Index (円換算ベース)は、設定時の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 当ファンドの設定日は2021年11月15日です。

	2021年11月15日 設定日	2022年11月14日 決算日	2023年11月14日 決算日
基準価額 (円)	10,000	9,660	10,769
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 3.4	11.5
Bloomberg MSCI Global Green Bond Index (円換算ベース) 騰落率 (%)	—	△ 8.1	12.0
純資産総額 (百万円)	836	1,662	1,621

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算当日との比較です。
ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2022年11月14日の騰落率は設定当初との比較です。
- (注) Bloomberg MSCI Global Green Bond Index (円換算ベース)は、参考指数です。参考指数の詳細は22ページをご参照ください。
- (注) 参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しているものです。

(2022年11月15日~2023年11月14日)

投資環境

グリーンボンド (Bloomberg MSCI Global Green Bond Index (米ドルベース)) +5.0%
米国10年国債利回り 4.45% (前期末 3.86%)
米ドル/円 151円77銭 (前期末 139円60銭)

※グリーンボンドの騰落率は当期末時点 (対前期末比)、米国10年国債利回りおよび米ドル/円は当期末の数値です。

《債券市場》

当期間中、主要国の国債利回りは上昇しました。主要国の10年国債利回りの推移を見ると、期初は米国景気の底堅さから利上げが続くとの観測が高まったこと、米国政府の債務上限問題が嫌気されたこと、F R Bが利上げを再度行ったことなどを背景に、主要国の国債利回りは上昇基調で推移しました。期中盤から後半にかけては、堅調な雇用などを背景に米国景気が底堅い推移となっていること、またそれに伴いF R Bが政策金利を従来の想定よりも長期にわたり高い水準に維持するとの観測が強まったこと、欧州中央銀行 (E C B) が継続して利上げを行ったことなどを受け、主要国の国債利回りは上昇し、期末を迎えました。

グリーンボンド市場は、投資対象国のベース金利が上昇したことなどに伴い、期を通してみると利回りは上昇しました。

《為替市場》

当期間中、米ドルは対円で上昇しました。期を通してみると、日銀が大規模な金融緩和政策を維持したこと、米国景気の底堅さからF R Bが金融引き締め政策を長期化するとの観測が広がったことなどを受け、米国の長期金利が上昇したことなどから日米金利差が拡大し、米ドル高/円安が進行する展開となりました。ユーロは対円で上昇しました。E C Bが継続的な利上げを実施し、対円でユーロが買われやすい展開となりました。

当ファンドのポートフォリオ

(2022年11月15日~2023年11月14日)

主としてインベスコ 世界グリーンボンド マザーファンド（以下、マザーファンドといいます。）に投資を行い、マザーファンドを通じて先進国の通貨建て（日本円を除きます。）のグリーンボンドに投資しました。実質外貨建資産については、対円での為替ヘッジを行いませんでした。

マザーファンドでは、取得時において投資適格以上の信用格付を有するグリーンボンドに投資を行うとともに、ポートフォリオ全体の平均格付は原則として投資適格以上とすることを基本としてポートフォリオを構築しました。具体的には、資産配分については社債をほぼ全ての投資対象としました。国別では米国、日本などを高めの組入比率とし、通貨別では米ドル、ユーロなどを高めの組入比率としました。

<ESGを主要な要素として選定する投資対象への投資額の比率について>

当ファンドでは、ESGを主要な要素として選定する投資対象への投資額（時価ベース）の比率に具体的な数値目標は設定されていませんが、「先進国通貨建て（日本円を除きます。）のグリーンボンドを実質的な主要投資対象」と定めており、ポートフォリオにおけるグリーンボンドの組入比率は高位に維持されます。

<インベスコのステewardシップ方針>

当社およびインベスコ・グループ全体におけるステewardシップに関する取り組みについては、以下をご参照ください。

ステewardシップ・レポート

<https://www.invesco.com/jp/ja/policies/stewardship-report.html>

当ファンドのベンチマークとの差異

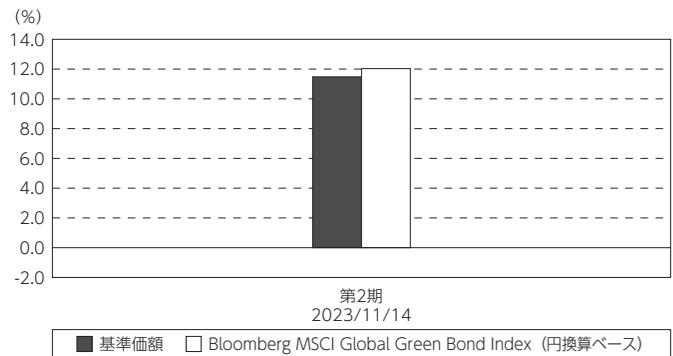
(2022年11月15日~2023年11月14日)

当期の基準価額騰落率は+11.5%となり、参考指数であるBloomberg MSCI Global Green Bond Index（円換算ベース）の騰落率+12.0%を下回る結果となりました。

[プラス要因]

- ・ 相対的に堅調だったテクノロジーや生命保険セクターの配分を参考指数よりも高い配分としたことなどがプラスに寄与しました。
- ・ 電力セクターなどにおける銘柄選択がプラスに寄与しました。

基準価額と参考指数の対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

(注) Bloomberg MSCI Global Green Bond Index（円換算ベース）は、参考指数です。参考指数の詳細は22ページをご参照ください。

[マイナス要因]

- ・相対的に軟調だったオフィスREITセクターの配分を参考指数よりも高い配分としたことなどがマイナスに影響しました。
- ・その他金融セクターなどにおける銘柄選択がマイナスに影響しました。

分配金

(2022年11月15日～2023年11月14日)

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向および残存信託期間などを勘案し、当期は見送りとさせていただきます。収益分配金に充てなかった収益につきましては、信託財産に留保して元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第2期
	2022年11月15日 ～2023年11月14日
当期分配金	－
(対基準価額比率)	－%
当期の収益	－
当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額	821

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

主としてマザーファンドに投資を行い、マザーファンドを通じて先進国の通貨建て(日本円を除きます)のグリーンボンドに投資します。実質外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行わない方針です。マザーファンドでは、取得時において投資適格以上の信用格付を有するグリーンボンドに投資を行うとともに、ポートフォリオ全体の平均格付は原則として投資適格以上とすることを基本とします。

世界的な環境意識の高まりや、ESG投資の高まりを背景にグリーンボンドに対する投資家の旺盛な需要と企業によるグリーンボンドの新規発行は今後も継続すると考えています。足元では、世界的にインフレがピークアウトし、2023年10月の米連邦公開市場委員会(FOMC)ではFRBは政策金利の据え置きを決定いたしました。しかしながら、利上げを休止しても、FRBが引き続き金融引き締め政策を維持する可能性が高く、今後も米国金利は高止まりで推移すると見られています。一方で、雇用環境が良好であること、個人消費も堅調に推移していることなどから深刻な景気後退に陥る可能性は低いと考えております。

ファンドの運用では、トップダウンのマクロ経済分析とボトムアップの個別銘柄分析に基づき、投資銘柄の信用力、流動性に注意を払いつつ、長期で安定した利回りの確保を目指します。

お知らせ

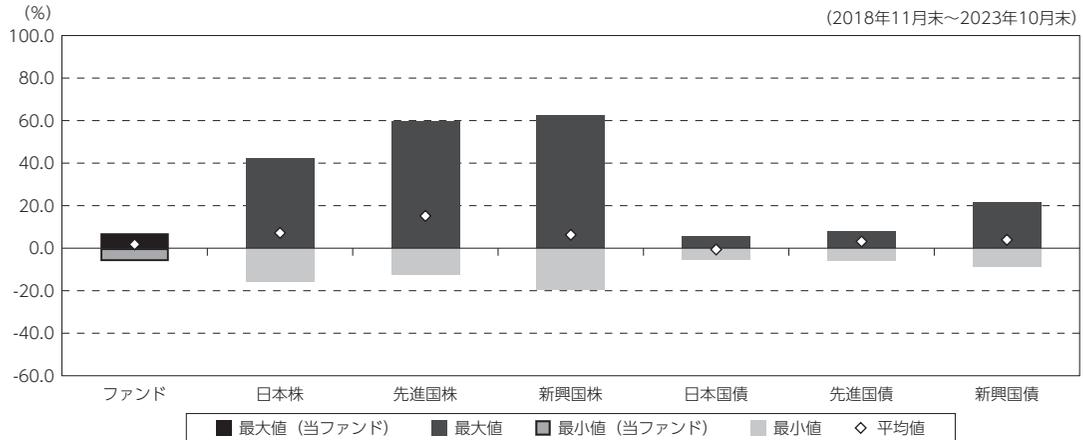
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券	
信託期間	2031年11月14日まで	
運用方針	先進国の通貨建て（日本円を除きます。）のグリーンボンドを実質的な主要投資対象とし、投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を図ることを目標として運用を行います。	
主要投資対象	インベスコ 世界グリーンボンド・ファンド<為替ヘッジなし>	「インベスコ 世界グリーンボンド マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	インベスコ 世界グリーンボンド マザーファンド	先進国の通貨建て（日本円を除く）のグリーンボンドを主要投資対象とします。
運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として、世界のグリーンボンドに投資します。 ・取得時において投資適格以上の信用格付を有するグリーンボンドに投資を行うとともに、ポートフォリオ全体の平均格付は原則として投資適格以上とすることを基本とします。ただし、信用格付の低下等により投資適格未満のグリーンボンドを保有することがあります。 ・実質外貨建資産について、原則として、対円での為替ヘッジを行いません。 	
分配方針	年1回の毎決算時（原則として11月14日。同日が休業日の場合は翌営業日）に委託会社が、基準価額水準、市場動向、残存信託期間等を勘案して分配を行います。ただし、委託会社の判断により分配を行わないことがあります。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	1.8	7.2	15.2	6.3	-0.6	3.1	3.9
最大値	7.0	42.1	59.8	62.7	5.4	7.9	21.5
最小値	-6.1	-16.0	-12.4	-19.4	-5.5	-6.1	-8.8

(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2018年11月から2023年10月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を表示したものです。なお、当ファンドは2022年11月以降の年間騰落率を用いております。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：TOPIX（東証株価指数）（配当込み）

先進国株：MSCI コクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA - BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JP モルガン GBI - EM グローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

※各指数についての説明は、P22の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2023年11月14日現在)

○組入上位ファンド

銘柄名	第2期末
インベスコ 世界グリーンボンド マザーファンド	100.5%
組入銘柄数	1銘柄

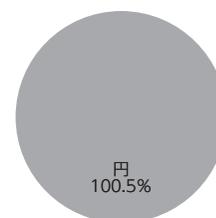
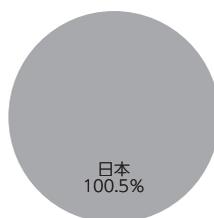
(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

○資産別配分

○国別配分

○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては、発行体の国籍(所在国)などを表示しております。

純資産等

項目	第2期末
	2023年11月14日
純資産総額	1,621,777,673円
受益権総口数	1,506,016,518口
1万口当たり基準価額	10,769円

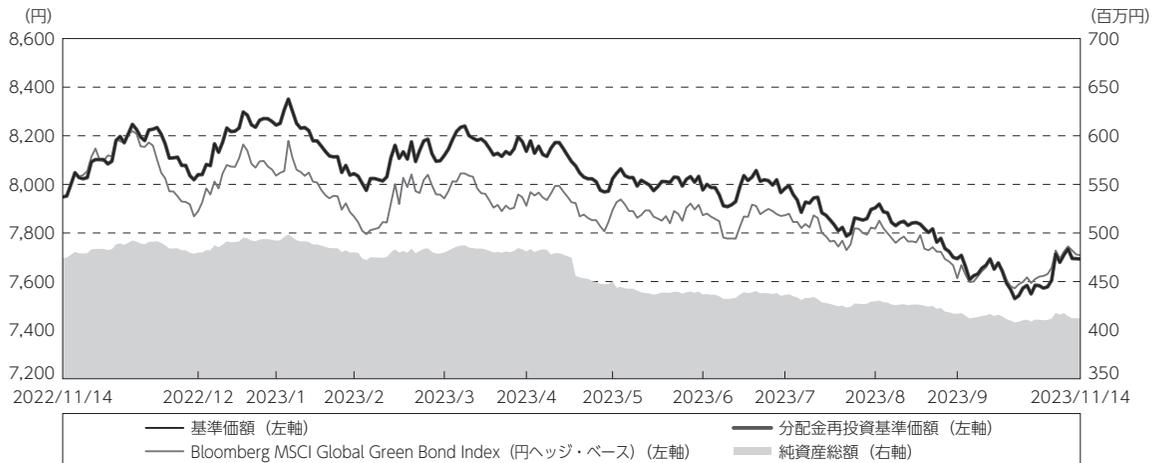
* 期中における追加設定元本額は38,845,910円、同解約元本額は253,594,416円です。

インベスコ 世界グリーンボンド・ファンド<為替ヘッジあり>

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2022年11月15日～2023年11月14日)



期首：7,948円

期末：7,693円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：△ 3.2% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびBloomberg MSCI Global Green Bond Index (円ヘッジ・ベース)は、期首(2022年11月14日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) Bloomberg MSCI Global Green Bond Index (円ヘッジ・ベース)は、参考指数です。参考指数の詳細は22ページをご参照ください。

○基準価額の主な変動要因

[上昇要因]

- 先進国の通貨建て(日本円を除きます。)のグリーンボンドを実質的な主要投資対象とし、取得時において投資適格以上の信用格付を有するグリーンボンドに投資を行うとともに、ポートフォリオ全体の平均格付は原則として投資適格以上とすることを基本とした運用を行った結果、保有する債券からのインカムゲイン(利息収入)が、基準価額の上昇要因となりました。

[下落要因]

- ・米連邦準備理事会（F R B）が利上げを行ったこと、期末には利上げが終了するとの見方が広がったものの、金融引き締め政策の継続を示していることなどから債券利回りが上昇（債券価格は下落）したことなどが、基準価額の下落要因となりました。
- ・実質外貨建資産について対円での為替ヘッジを行ったため、為替ヘッジコストがかかったことが基準価額の下落要因となりました。

1万口当たりの費用明細

(2022年11月15日～2023年11月14日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	73	0.913	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(35)	(0.440)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等の対価
（ 販 売 会 社 ）	(35)	(0.440)	購入後の情報提供、運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
（ 受 託 会 社 ）	(3)	(0.033)	ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	0	0.000	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
（ 先 物 ・ オ プ シ ョ ン ）	(0)	(0.000)	※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) そ の 他 費 用	10	0.131	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	(2)	(0.021)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（ 監 査 費 用 ）	(6)	(0.078)	監査費用は、監査法人に支払うファンドの監査に係る費用
（ 印 刷 費 用 ）	(3)	(0.032)	印刷費用は、目論見書や運用報告書等の法定書類の作成・印刷に要する費用等
（ そ の 他 ）	(0)	(0.000)	その他は、信託事務の処理に要する費用
合 計	83	1.044	
期中の平均基準価額は、7,985円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

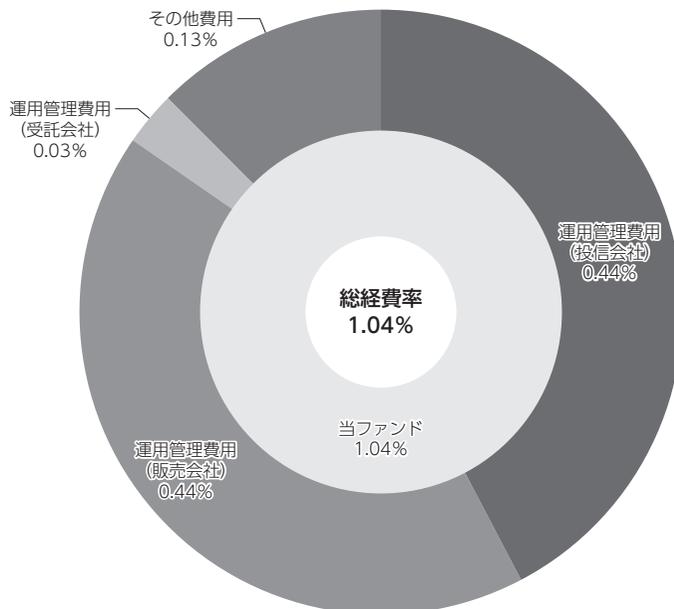
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

(参考情報)**○総経費率**

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.04%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

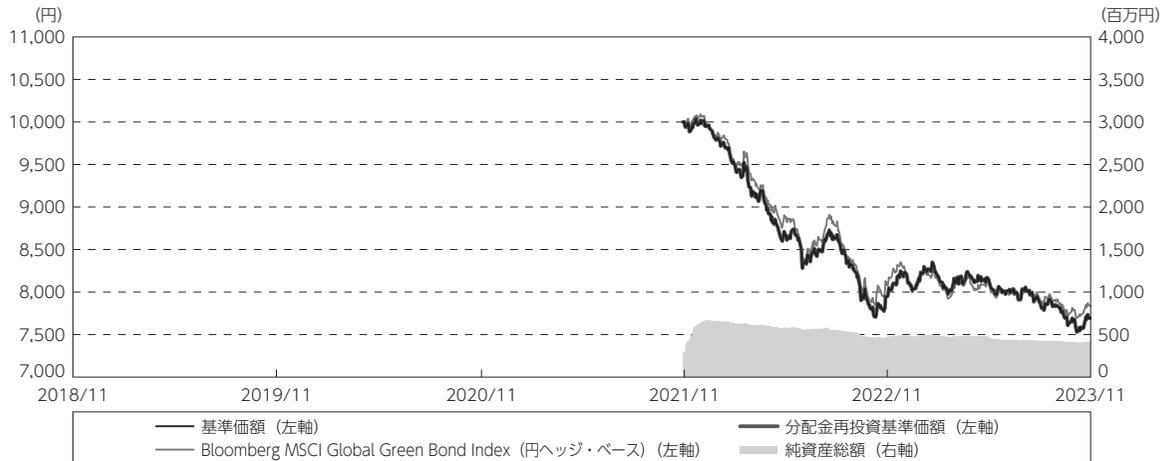
(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

(2018年11月14日～2023年11月14日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) Bloomberg MSCI Global Green Bond Index (円ヘッジ・ベース)は、設定時の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 当ファンドの設定日は2021年11月15日です。

	2021年11月15日 設定日	2022年11月14日 決算日	2023年11月14日 決算日
基準価額 (円)	10,000	7,948	7,693
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 20.5	△ 3.2
Bloomberg MSCI Global Green Bond Index (円ヘッジ・ベース)騰落率 (%)	—	△ 19.2	△ 3.0
純資産総額 (百万円)	290	474	412

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2022年11月14日の騰落率は設定当初との比較です。
- (注) Bloomberg MSCI Global Green Bond Index (円ヘッジ・ベース)は、参考指数です。参考指数の詳細は22ページをご参照ください。
- (注) 参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しているものです。

(2022年11月15日~2023年11月14日)

投資環境

グリーンボンド (Bloomberg MSCI Global Green Bond Index (米ドルベース)) +5.0%
 米国10年国債利回り 4.45% (前期末 3.86%)
 米ドル/円 151円77銭 (前期末 139円60銭)

※グリーンボンドの騰落率は当期末時点 (対前期末比)、米国10年国債利回りおよび米ドル/円は当期末の数値です。

《債券市場》

当期間中、主要国の国債利回りは上昇しました。主要国の10年国債利回りの推移を見ると、期初は米国景気の底堅さから利上げが続くとの観測が高まったこと、米国政府の債務上限問題が嫌気されたこと、F R Bが利上げを再度行ったことなどを背景に、主要国の国債利回りは上昇基調で推移しました。期中盤から後半にかけては、堅調な雇用などを背景に米国景気が底堅い推移となっていること、またそれに伴いF R Bが政策金利を従来の想定よりも長期にわたり高い水準に維持するとの観測が強まったこと、欧州中央銀行 (E C B) が継続して利上げを行ったことなどを受け、主要国の国債利回りは上昇し、期末を迎えました。

グリーンボンド市場は、投資対象国のベース金利が上昇したことなどに伴い、期を通してみると利回りは上昇しました。

《為替市場》

当期間中、米ドルは対円で上昇しました。期を通してみると、日銀が大規模な金融緩和政策を維持したこと、米国景気の底堅さからF R Bが金融引き締め政策を長期化するとの観測が広がったことなどを受け、米国の長期金利が上昇したことなどから日米金利差が拡大し、米ドル高/円安が進行する展開となりました。ユーロは対円で上昇しました。E C Bが継続的な利上げを実施し、対円でユーロが買われやすい展開となりました。

当ファンドのポートフォリオ

(2022年11月15日~2023年11月14日)

主としてインベスコ 世界グリーンボンド マザーファンド（以下、マザーファンドといいます。）に投資を行い、マザーファンドを通じて先進国の通貨建て（日本円を除きます。）のグリーンボンドに投資しました。実質外貨建資産については、対円で為替ヘッジを行うことにより、為替変動リスクの低減を図りました。

マザーファンドでは、取得時において投資適格以上の信用格付を有するグリーンボンドに投資を行うとともに、ポートフォリオ全体の平均格付は原則として投資適格以上とすることを基本としてポートフォリオを構築しました。具体的には、資産配分については社債をほぼ全ての投資対象としました。国別では米国、日本などを高めの組入比率とし、通貨別では米ドル、ユーロなどを高めの組入比率としました。

<ESGを主要な要素として選定する投資対象への投資額の比率について>

当ファンドでは、ESGを主要な要素として選定する投資対象への投資額（時価ベース）の比率に具体的な数値目標は設定されていませんが、「先進国通貨建て（日本円を除きます。）のグリーンボンドを実質的な主要投資対象」と定めており、ポートフォリオにおけるグリーンボンドの組入比率は高位に維持されます。

<インベスコのステewardシップ方針>

当社およびインベスコ・グループ全体におけるステewardシップに関する取り組みについては、以下をご参照ください。

ステewardシップ・レポート

<https://www.invesco.com/jp/ja/policies/stewardship-report.html>

当ファンドのベンチマークとの差異

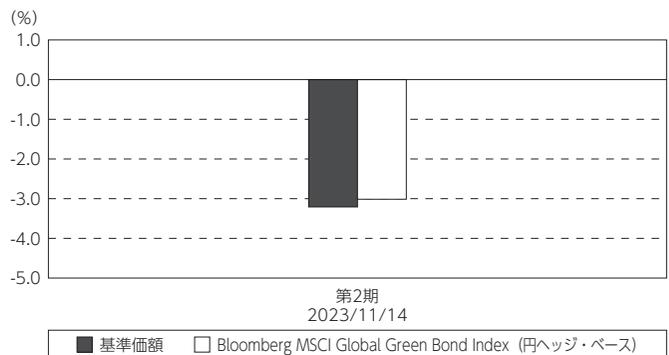
(2022年11月15日~2023年11月14日)

当期の基準価額騰落率は△3.2%となり、参考指数であるBloomberg MSCI Global Green Bond Index（円ヘッジ・ベース）の騰落率△3.0%を下回る結果となりました。

[プラス要因]

- ・相対的に堅調だったテクノロジーや生命保険セクターの配分を参考指数よりも高い配分としたことなどがプラスに寄与しました。
- ・電力セクターなどにおける銘柄選択がプラスに寄与しました。

基準価額と参考指数の対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

(注) Bloomberg MSCI Global Green Bond Index（円ヘッジ・ベース）は、参考指数です。参考指数の詳細は22ページをご参照ください。

[マイナス要因]

- ・相対的に堅調だったオフィスREITセクターの配分を参考指数よりも低い配分としたことなどがマイナスに影響しました。
- ・その他金融セクターなどにおける銘柄選択がマイナスに影響しました。

分配金

(2022年11月15日～2023年11月14日)

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向および残存信託期間などを勘案し、当期は見送りとさせていただきます。収益分配金に充てなかった収益につきましては、信託財産に留保して元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第2期
	2022年11月15日 ～2023年11月14日
当期分配金	－
(対基準価額比率)	－%
当期の収益	－
当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額	324

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

主としてマザーファンドに投資を行い、マザーファンドを通じて先進国の通貨建て(日本円を除きます)のグリーンボンドに投資します。実質外貨建資産への投資に当たっては、原則として対円での為替ヘッジを行うことにより、為替変動リスクの低減を図ります。

マザーファンドでは、取得時において投資適格以上の信用格付を有するグリーンボンドに投資を行うとともに、ポートフォリオ全体の平均格付は原則として投資適格以上とすることを基本とします。

世界的な環境意識の高まりや、ESG投資の高まりを背景にグリーンボンドに対する投資家の旺盛な需要と企業によるグリーンボンドの新規発行は今後も継続すると考えています。足元では、世界的にインフレがピークアウトし、2023年10月の米連邦公開市場委員会(FOMC)ではFRBは政策金利の据え置きを決定いたしました。しかしながら、利上げを休止しても、FRBが引き続き金融引き締め政策を維持する可能性が高く、今後も米国金利は高止まりで推移すると見られています。一方で、雇用環境が良好であること、個人消費も堅調に推移していることなどから深刻な景気後退に陥る可能性は低いと考えております。

ファンドの運用では、トップダウンのマクロ経済分析とボトムアップの個別銘柄分析に基づき、投資銘柄の信用力、流動性に注意を払いつつ、長期で安定した利回りの確保を目指します。

お知らせ

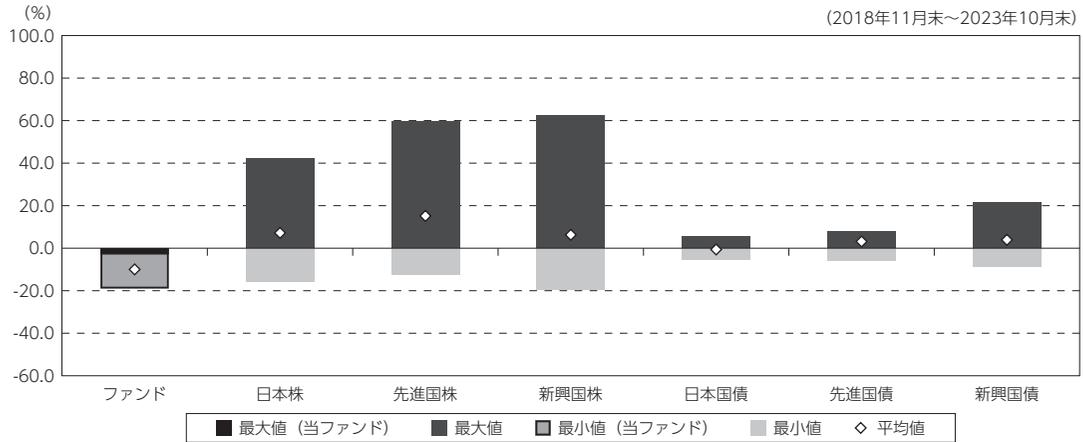
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券	
信託期間	2031年11月14日まで	
運用方針	先進国の通貨建て（日本円を除きます。）のグリーンボンドを実質的な主要投資対象とし、投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を図ることを目標として運用を行います。	
主要投資対象	インベスコ 世界グリーンボンド・ ファンド<為替ヘッジあり>	「インベスコ 世界グリーンボンド マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	インベスコ 世界グリーンボンド マザーファンド	先進国の通貨建て（日本円を除く）のグリーンボンドを主要投資対象とします。
運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として、世界のグリーンボンドに投資します。 ・取得時において投資適格以上の信用格付を有するグリーンボンドに投資を行うとともに、ポートフォリオ全体の平均格付は原則として投資適格以上とすることを基本とします。ただし、信用格付の低下等により投資適格未滿のグリーンボンドを保有することがあります。 ・実質外貨建資産について、原則として、対円での為替ヘッジを行うことにより、為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。 	
分配方針	年1回の毎決算時（原則として11月14日。同日が休業日の場合は翌営業日）に委託会社が、基準価額水準、市場動向、残存信託期間等を勘案して分配を行います。ただし、委託会社の判断により分配を行わないことがあります。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	-10.0	7.2	15.2	6.3	-0.6	3.1	3.9
最大値	-3.0	42.1	59.8	62.7	5.4	7.9	21.5
最小値	-19.0	-16.0	-12.4	-19.4	-5.5	-6.1	-8.8

(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2018年11月から2023年10月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を表示したものです。なお、当ファンドは2022年11月以降の年間騰落率を用いております。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：TOPIX（東証株価指数）（配当込み）

先進国株：MSCI コクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA - BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JP モルガン GBI - EM グローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

※各指数についての説明は、P22の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2023年11月14日現在)

○組入上位ファンド

銘柄名	第2期末
インベスコ 世界グリーンボンド マザーファンド	102.4%
組入銘柄数	1銘柄

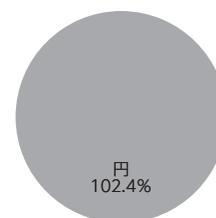
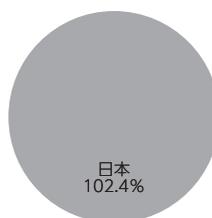
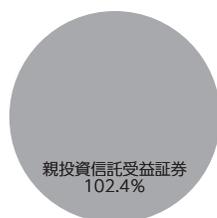
(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

○資産別配分

○国別配分

○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては、発行体の国籍(所在国)などを表示しております。

純資産等

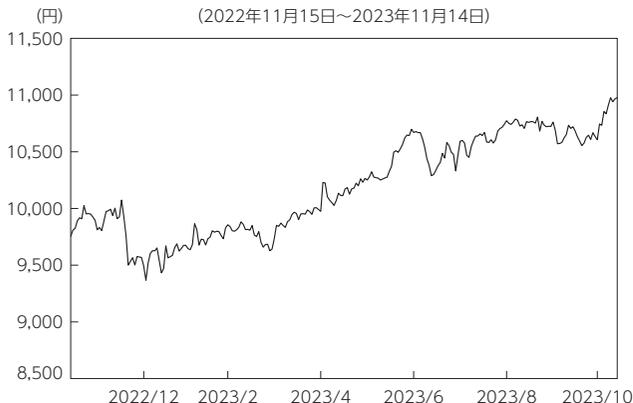
項目	第2期末
	2023年11月14日
純資産総額	412,222,588円
受益権総口数	535,811,980口
1万口当たり基準価額	7,693円

* 期中における追加設定元本額は4,077,024円、同解約元本額は65,170,770円です。

組入上位ファンドの概要

インベスコ 世界グリーンボンド マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2022年11月15日～2023年11月14日)

項目	当期	
	金額	比率
	円	%
(a) 売買委託手数料 (先物・オプション)	0 (0)	0.000 (0.000)
(b) その他費用 (保管費用)	2 (2)	0.020 (0.020)
(その他)	(0)	(0.000)
合計	2	0.020

期中の平均基準価額は、10,187円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

【組入上位10銘柄】

(2023年11月14日現在)

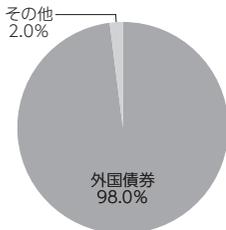
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
					%
1	BANK OF AMERICA 2.456% 2025/10/22	普通社債券	米ドル	アメリカ	2.1
2	NEXTERA ENERGY CAPITAL 1.9% 2028/6/15	普通社債券	米ドル	アメリカ	2.1
3	DOMINION ENERGY 2.25% 2031/8/15	普通社債券	米ドル	アメリカ	2.0
4	NORINCHUKIN BANK 5.43% 2028/3/9	普通社債券	米ドル	日本	1.8
5	SOCIEDAD QUIMICA Y MINER 6.5% 2033/11/7	普通社債券	米ドル	チリ	1.8
6	VENA ENERGY CAP PTE 3.133% 2025/2/26	普通社債券	米ドル	シンガポール	1.7
7	BROOKFIELD FINANCE 2.724% 2031/4/15	普通社債券	米ドル	カナダ	1.7
8	TELIA 1.375% 2049/12/31	普通社債券	ユーロ	スウェーデン	1.6
9	WESTPAC BANKING 0.766% 2031/5/13	普通社債券	ユーロ	オーストラリア	1.6
10	SUZANO INTL FINANCE BV 5.5% 2027/1/17	普通社債券	米ドル	オランダ	1.6
	組入銘柄数			103銘柄	

(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

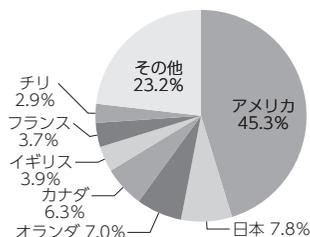
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては、発行体の国籍(所在国)などを表示しております。

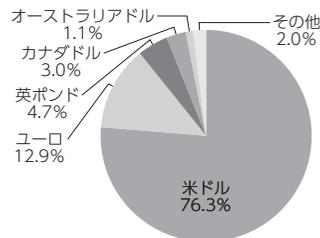
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては、発行体の国籍(所在国)などを表示しております。

(注) その他には現金等を含む場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

<当ファンドの参考指数について>

<為替ヘッジなし>

当ファンドはベンチマークを定めていないため、参考指数としてBloomberg MSCI Global Green Bond Index (円換算ベース) を掲載しています。当該参考指数は、Bloomberg MSCI Global Green Bond Index (米ドルベース) をもとに、当社が独自に円換算して指数化したものです。

<為替ヘッジあり>

当ファンドはベンチマークを定めていないため、参考指数としてBloomberg MSCI Global Green Bond Index (円ヘッジベース) を掲載しています。当該参考指数は、Bloomberg MSCI Global Green Bond Index (円ヘッジ指数) をもとに、当社が独自に指数化したものです。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

○TOPIX (東証株価指数) (配当込み)

TOPIX (東証株価指数) (配当込み) は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社に帰属します。

○MSCI コクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI コクサイ・インデックスは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCI コクサイ・インデックスに対する著作権及びその他の知的財産権はすべてMSCI Inc. に帰属します。

○MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI エマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他の知的財産権はすべてMSCI Inc. に帰属します。なお、円ベース指数については、委託会社がMSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、米ドルベース) に、当日の米ドル為替レート (WM/ロイター値) を乗じて算出しています。

○NOMURA - BPI 国債

NOMURA - BPI 国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA - BPI 国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。

○FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE 世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JP モルガン GBI - EM グローバル・ダイバーシファイド (円ベース)

JP モルガン GBI - EM グローバル・ダイバーシファイドは、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。円ベース指数については、委託会社がJP モルガン GBI - EM グローバル・ダイバーシファイド (米ドルベース) に、当日の米ドル為替レート (WM/ロイター値) を乗じて算出しています。

指数に関する一切の知的財産権とその他一切の権利はJPMorgan Chase & Co.及び関係会社 (「JP モルガン」) に帰属しております。JP モルガンは、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。JP モルガンは、指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドを推奨するものでもなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。